

旅行取扱状況の概観（平成17年9月分）

海外旅行の取り扱いでは、団体旅行は一般団体の不振、学生団体の伸び悩みにより、前年実績を大幅に下回り5ヶ月連続での前年比マイナスと低迷が続いている。企画旅行は、ホリデイは堅調に推移したが、その他企画商品が不調のため、前年実績には届かなかった。個人旅行も取り扱いに勢いがなく、前年実績を下回る結果に終わった。

海外旅行合計は、団体旅行の取り扱い不振が影響し、前年比89.5%と大きく前年実績を下回り、5ヶ月連続の前年比マイナス。

国内旅行の取り扱いでは、一般団体は伸び悩んだが、学生団体が2桁増と取り扱い好調で、団体合計では、ほぼ前年並み実績を確保した。企画旅行ではメイトが前年比90.6%と大きく前年実績を下回っているが、これは計上基準の変更による異常値の影響があり、販売の実勢は前年比で103%程度の状況である。個人旅行では、宿泊券、航空券は好調であったが、取り扱い構成比の高いJR券が伸び悩んだため、前年実績には達しなかった。この結果、国内旅行合計は前年比で94.2%と前年実績に届かず、前月に引き続いての前年比マイナスとなった。

外国人旅行は、法人・個人の取り扱いが共に減少し、前年比82.0%と大きく前年実績を下回り、10ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

9月の総取扱額は、国内企画旅行の不調、海外団体の不振により、前年比92.0%と前年実績に達せず、前月に続いての前年比マイナスとなった。

1. 海外旅行

(1) 団体旅行

一般団体では、イベント関係の取り扱い、その他団体の取り扱いともに不振で、大幅な前年割れとなった。学生団体も、修学旅行の取り扱いが鈍化し前年実績に届かなかった。方面別の取り扱いでは、中国を除くアジア、ハワイ、およびオセアニアが2桁増と好調であった。アジアでは韓国が特に大きく増加したが、中国は依然前年の7割程度の状況と回復の兆しが見えない。

(2) 企画旅行

ホリデイは、前年比103.9%と8ヶ月連続の前年比プラスと堅調に推移。方面別取り扱いでは、アジアが伸び悩んだが、ミクロネシア、ハワイ、アメリカが2桁増と好調であった。アジアは各方面とも低調で、特に中国は前年の55%と、不振が続いている。

2. 国内旅行

(1) 団体旅行

一般団体は、イベント・コンベンション関係の取扱いは好調であったが、その他団体の取り扱いが選挙の影響もあって伸び悩んだこともあり、前年実績には達しなかった。学生団体は修学旅行、校外学習等の取り扱いが大きく増加し、合計では2桁増と好調。

(2) 企画旅行

メイトは、計上基準変更の影響で大きく前年実績を下回っているが、販売の実勢をみると、前年比103%と堅調。取り扱い内容では、北海道、近場商品、および宿泊型商品は堅調な取り扱いで前年を上回ったが、九州、沖縄の取り扱いが前年割れと低迷した。

(以上)